

死ぬ死ぬ「詐欺」を、「実現」していただきたいと切に願います

浅井 陵

看護分野教員

貴重なお話を聞かせていただき、心より感謝申し上げます。  
高橋先生の言葉は、自分のなかで考えさせられるようなものばかりで、  
ありがたいお言葉をいただけて嬉しく思っております。

人は誰でも死ぬということは理解したつもりでいるけれど、  
死を実感することは難しいと感じております。  
高橋先生が、4000人近くの方の葬儀を行って死に関わってきたこと。  
ご自身の死を実感されたとき、これまでやってこられたことを問い直している  
こと。  
とても印象に残りました。

お話の中で、川越厚先生のことを触れられていました。  
私は1年弱、東京のクリニックで訪問看護師として川越先生にお世話になって  
おりました。当時は20代前半で、死についてそれほど考えたこともない中で、  
末期がんの方の訪問をしておりました。その時、残された時間をどう過ごすのか  
についてよく考えておりました。  
今は臨床から離れてしまいましたが、死について考えることがあります。いつ死  
ぬか分からない。今を大切に、どう生きるかと。

でも、死を実感することはできておりません。  
いざ、自分が死を実感したときに、これまでの経験や考えが問い直されるのかな  
と思います。  
答えは出ないけど、死について考えることは大事なことだと思っています。

お話を聞いて、大きなパワーをもらいました。  
どうか、死ぬ死ぬ詐欺を実現していただきたいと切に願います。